

ビデオレターによる小学校紹介	(2) 小学校との連携・交流
公立保育所	千葉市幸第一保育所
<実施時期>	令和2年11月～12月
<幼児期の終わりまでに育って欲しい姿に繋がる部分>	
「協同性」「思考力の芽生え」「数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚」「言葉による伝え合い」	
<活動のきっかけ>	
<ul style="list-style-type: none"> ・就学前健診が近づき、子ども達の中で就学先や健診日についての話が聞かれる。 ・小学生の兄姉がいる子達は小学校について話をする様子が見られるが、第1子は、会話の中に入ることが出来ない様子があった。 ・ランドセルの話が友達や保育者との会話の中で聞かれ、就学に期待を持っている子もいる反面、不安を感じている子もいる。 	
<活動のねらい>	
<ul style="list-style-type: none"> ・小学校への関心を持ち、就学に期待をもつ 	
<経験する内容>	
<ul style="list-style-type: none"> ・一緒に過ごしたことがある1年生の姿を見ることを通して、小学校について興味を持つ。 ・小学校と保育所の違いに気づく。 ・共通の話題から考えたり、友達の前で自分の意見を発表したり、友達や小学校の先生の話聞く経験をする。 	
<新型コロナウイルス感染症に対する活動の工夫>	
<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍で子ども達が実際に小学校へ見学に行ったり、1年生と交流したりするなど例年と同様の交流は難しいと考えた為、小学校の長期休暇中に校内の写真撮影を打診した。 ・小学校側でもコロナ禍での保育所との交流について考慮していたようで、1年生が校内を紹介するビデオレターを撮影、提供する提案があった為をお願いすることとした。 	
<活動の内容>	
<ul style="list-style-type: none"> ・小学校の教室や図書室などを撮影したビデオレターを届けてくれた小学校の先生と一緒に視聴する。 ・視聴後は、小学校の先生に手を挙げて質問をする。 ・ビデオレターのことを思い出しながら、御礼の手紙などを書く。 	

<p><活動でみられた子どもの姿></p>	<p><環境構成・教材や保育者の援助等></p>
<ul style="list-style-type: none"> ・始まる前に子ども達にクラスで話をすると、とても期待を持っていた。 ・知っている1年生がでてくると、「〇〇くんだ！」と嬉しそうにしたり、映像に向かって手を振り返していた。 ・保育所にはない教室の紹介を見て、驚いたり喜んだりしていた。 ・発見したことや驚いたことなどをその都度言葉で表したり、友達と伝え合っていた。 ・視聴後は、小学校の先生に質問をした。自分から積極的に質問をする子もいれば、周りの勢いで挙手する子もいる。 ・ビデオを見て気が付いたことなどを質問する子もいれば、家に帰る時はどうするのかなどビデオには出てこなかったことも質問をする子がいた。 ・当日欠席した子は、友達や保育者から話を聞き、「見たかった」と残念がっていた。 ・10日ほど経ってから、ビデオレターのことを思い出し、御礼のお手紙を書きたいという声が子ども達からあがった。 ・「本が1万冊ある」「どんぐりの樹がある」などビデオレターの内容をよく覚えていた。 ・字を書くことがまだ難しい子は自分の顔やビデオレターに出てきたことを絵で描いていた。 ・12月に入り、お礼状の返事として、1年生からクリスマスリースが届いた。知っている1年生の名前を見つけ、「〇〇ちゃんだね」と嬉しそうなお姿が見られた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ビデオレターの視聴時期については、小学校側より就学前健診前に行くことで、子ども達が期待や関心をよりもてるのではないかとの提案があった。 ・子どもの様子に合わせて保育者が間に入り、代弁や質問をすることで、子ども自身が話したいことを整理できるようにする。 ・子どもが主体的に取り組めるように、子どもの気づきや発言を大切に、意見を考えたり、友達同士で話し合えたりする時間を持つ。 ・字を書くことや絵を描くことに自信のない子には、保育者が傍につき、ビデオレターの内容や表現したい物について質問しながら、意欲をもてるようにする。
<p><成果と今後の課題></p>	
<p>保育所に在籍していた1年生の姿を見ることができ、小学校への期待や親しみが子ども達の中で増していた。就学前健診前という時期も良かったと思われ、健診時に小学校の先生に挨拶をする子もいた。コロナ禍の為、校内に入ることはできなかったが、その後小学校周辺に散歩に出かけた時には、ビデオレターや健診時のことを思い出して、会話する様子が見られた。</p> <p>小学校側が協力してくれたおかげで、就学に対して期待が高まった。今後もコロナ禍の中で、「できない」ではなく、「何ができるか」という視点で交流の方法を考えていく必要がある。</p>	

<カリキュラムコーディネーターのコメント>

交流会が出来ない状況下、兄弟姉妹からの話題やランドセルに関する会話など、小学校への期待と不安が交錯している中、小学校に保育所側からアクションを起こし、写真撮影の打診から小学校1年生の校内紹介のビデオレター撮影と提供に繋がり、保育者の初めの一歩は大きかったです。教室や図書室といった子どもたちの知らない場所を映像で見ながら、ビデオレターを届けて下さった学校の先生に質問が出来たり御礼の手紙が書けたり、多様な経験を生み出し素晴らしい実践でした。